■設立総会後の講演会の若勢海事プレス社長の講演へのディスカッションで、田中博会員から「雑誌にもクルーズ船のフォーマルに和服は OK」とされている場合が多いが、日本人から見て見苦しい場合も少なくないので一度検討しては?という提案があった。

■成実信吾会員からの意見

さて、9 日に話題に上りました船上での和装の件ですが、東京に戻り、思い出したことがありますので、お知らせします。

ご存じの通り、小員 10 年ほど前に JICA に出向し、国連に派遣されました。その際、JICA から「やさしい国際儀礼　プロトコール Q&A 外務省外務報道官編集（財）世界の動き社」という本を渡されました。

この本は、国際的なしきたりについて外務省外務大臣官房儀典官室の担当官が執筆したもので、名刺、パーティー、テーブルマナー、服装などについて Q&A 形式で記載し、図も多い分かりやすいものです。JICA の専門家は、日本の外交官の少ない地域にも派遣されることがあるため、念のため外交の基本的な知識を学ぶ為、渡されたものと思います。

この本の服装の解説には、男性に合わせるとき女性の和服は、
(1)昼、男性がモーニングの場合、女性は黒留袖、又は色留袖、
(2)夜フォーマル指定の場合、男性はブラックタイゆえ、女性は訪問着で良い、
(3)夜インフォーマルの場合、男性はダークスーツ程度ゆえ、女性は軽い訪問着、又は付下げで良い

なお、黒留袖と色留袖は同格であるが、宮中では黒は用いられず、外国人が混じった国際的な社交の場でも色留袖や訪問着が多い。
と記載されています。

従って、正式な外交の場でも、和服が正装と認められています。但し、9 日に、指摘があったように、安物の着物は着物のイメージを著しく損なうのも事実です。安物のペナペナな着物なら、洋服の方が遙かに良いでしょう。

一方、正絹の着物であれば、軽い上に、例えしわになってもハンガーにつるしておけば、直ぐしわがとれるそうです。圧縮袋に詰め、スーツケースに入れ、乗船したらハンガーにつるしておけば、フォーマルナイトには間に合うでしょう。

余談ですが、小員、昨年、MSC ムジカのエーゲ海クルーズに乗船した際、若い日本人女性がフォーマルナイトに着物で現れましたが、すばらしいもので、思わず見とれました。周りにいた欧州人の女性もうっとりしていました。

クルーズに行かれる女性に対しては、正絹の着物（訪問着）を持っていれば是非持って行くよう勧め、持っていなければ洋服の方が良い、と勧めてはどうでしょうか。
雑誌「クルーズ」で取り上げて頂きたいと思いますし、クルーズコンサルタントにもお客さんにそう勧めて頂きたいと思います。クルーズコンサルタントに対しては、Noticeを流して注意を促しては如何でしょうか。

■堀江珠喜会員
和装論争に反響があり、成実さまのご意見を興味深く拝読しました。
２０年前、アメリカで講演した時や、ロンドンのオペラハウスへ出かける時には、正絹和服を着たこともある私ですが、確かに折りたたみやすく、シワにもあまりなりませんでした。　けれども、その後、実は、西洋人の美意識に合わないことがわかったので、もう着ません。　「キモノ、ビューテイフル」は、よほどの日本通でなければ、単なるリップサービスです。　これについては親しくなった欧米の外交官たちから、本音を聞きました。女性の体のラインを隠す筒形は、彼らにとって、むしろ異様なのです！

多分、余談で成実さまが書いておられた、クルーズでの若いオミズ系女性の場合は、おそらくドレスでも注目されたのでは？なにしろ今、欧米ではアジア系女性は、(私の年齢ですら)もてるのです！　また、あちらの女性がうっとりしていたのは、和服のスタイルではなく、和服の材質や模様についてではなかったかと想像します。また近年、ゲイシャのロマンチックな映画が欧米でヒットし、とりわけ、あちらの女性客を魅了しましたので、それこそ「ゲイシャガール」とみなされたかもしれません。いずれにしても、面白いのは、うっとりしたのが、あちらの女性たちで、殿方ではなかったことです。繰り返しになりますが、一般論として、西洋の男性は、体のラインのわかるドレスを女性が着ることを好みます。これについて、フェミニストはどう思うか知りませんが。(ちなみに、あの上野千鶴子さまは、和装派のようです！)

と言うわけで、田中博会員が講演会で指摘したように、ことさら和服をクルーズに薦める必要はないと存じます。和装に自信のあるかたは、言われなくても、お召しになるでしょうし、ふだん着慣れない方、場違いの着物の方の場合は見苦しいだけでしょう。

ところで、私、以前、繊維関係の業界月刊誌にファッション記事を連載していたことがありました。当時はクルーズ体験が無かったので、こんな和装論争については書きませんでしたが．．．．．。